

住民意向調査速報版（葛尾村・浪江町）の公表について

原発事故による避難者等に対する住民意向調査について、葛尾村及び浪江町の住民を対象とした調査結果を取りまとめました。

1. 調査概要

葛尾村

調査主体	復興庁、福島県、葛尾村
調査対象	避難指示が解除された地域に住民登録をしていた世帯の代表者（593 世帯）
実施期間	平成 30 年 10 月 5 日～10 月 19 日
回答者数	325 世帯（回収率 54.8%）

浪江町

調査主体	復興庁、福島県、浪江町
調査対象	全世帯主（7,505 世帯）
実施期間	平成 30 年 10 月 8 日～10 月 22 日
回答者数	3,042 世帯（回収率 40.5%）

2. 調査結果のポイント

別紙 1～2 のとおり

本件連絡先
（原子力災害復興班）担当：中島
電話：03-6328-0250（直通）

葛尾村調査結果のポイント

- ・ 将来の帰還意向やその判断の前提となる情報、帰還した場合に行政に望む支援等の把握を目的に実施。
- ・ 復興庁、福島県、葛尾村の共同調査は5回目。
- ・ 帰還の意向については、平成29年度の調査と比べて、
 - ・ 「既に葛尾村に戻っている」及び「戻りたいと考えている（将来的な希望も含む）」の合算が46.1%に増加（+2.4%）。
 - ・ 「現時点でまだ判断がつかない」が微増（+0.7%）。
 - ・ 「戻らないと決めている」が増加（+2.6%）。

(1) 帰還の意向

既に葛尾村に戻っている	24.9% (17.2%)
戻りたいと考えている(将来的な希望も含む)	21.2% (26.5%)
現時点でまだ判断がつかない	23.4% (22.7%)
戻らないと決めている	26.8% (24.2%)

※(カッコ)書きは、それぞれ前回調査(H29.10)結果

(2) 帰還の判断がつかない理由（上位抜粋）

避難先の方が、生活利便性が高いから	52.6%
医療環境に不安があるから	51.3%
葛尾村外への移動手段が不便だから	42.1%
原子力発電所の安全性に不安があるから	30.3%
営農などができそうにないから	30.3%

※帰還の意向で「現時点でまだ判断がつかない」と回答した方のみ回答

(3) 戻らないと決めている理由（上位抜粋）

避難先の方が、生活利便性が高いから	47.1%
医療環境に不安があるから	43.7%
葛尾村外への移動手段が不便だから	39.1%
高齢者・要介護者のいる世帯なので生活が不安だから	34.5%
すでに生活基盤ができているから	33.3%

※帰還の意向で「戻らないと決めている」と回答した方のみ回答

浪江町調査結果のポイント

- ・ 将来の帰還意向やその判断の前提となる情報、帰還した場合に行政に望む支援等の把握を目的に実施。
- ・ 復興庁、福島県、浪江町の共同調査は7回目。
- ・ 帰還の意向については、平成29年度の調査と比べて、
 - ・ 「すでに浪江町に帰還している」及び「すぐに・いずれ戻りたいと考えている」の合算が16.7%に微減（▲0.1%）。
 - ・ 「まだ判断がつかない」が減少（▲1.4%）。
 - ・ 「帰還しないと決めている」が微増（+0.4%）。

(1) 帰還の意向

すでに浪江町に帰還している	4.9% (3.3%)
すぐに・いずれ帰還したいと考えている	11.8% (13.5%)
まだ判断がつかない	30.2% (31.6%)
帰還しないと決めている	49.9% (49.5%)

※(カッコ)書きは、それぞれ前回調査(H29.12)結果

(2) 帰還を判断するために必要なこと（上位抜粋）

医療・介護の復旧時期の目途	52.9%
商業やサービス業などの施設の復旧時期の目途	50.7%
どの程度の住民が戻るかの状況	37.8%
原子力発電所の安全性に関する情報（事故収束や廃炉の状況）	31.3%
放射線量の低下の目途、除染成果の状況	28.0%

※帰還の意向で「まだ判断がつかない」と回答した方のみ回答

(3) 戻らないと決めている理由（上位抜粋）

医療環境に不安があるから	50.1%
すでに生活基盤ができているから	47.8%
生活に必要な商業施設などが元に戻りそうにないから	42.3%
避難先の方が、生活利便性が高いから	39.2%
原子力発電所の安全性に不安があるから	37.9%

※帰還の意向で「帰還しないと決めている」と回答した方のみ回答